

前号でお伝えした、日電協加盟のサミー、大都、エンターライズ社製回胴式遊技機の4機種におけるサブ制御基板の交換による点検作業が無事に実施されることが、6月12日付けで全日遊連より通達がありました。



## 「4機種サブ基板交換」 焦ったゴト師らの 大量ばら撒きを警戒

4機種とは、サミー「パチスロ北斗の拳 転生の章」、サミー「パチスロ北斗の拳 世紀末救世主伝

説」、大都「押忍！番長2」、エンターライズ「バイオオハザード5」で、過去にサブ制御基板のロム交換による不正事実が確認された遊技機になります。

これらの4機種のサブ制御基板を、「日電協統一点検済シール」が貼付されたサブ制御基板と交換し、それだけで終わりではなく、各メーカーが独自のゴト対策も実施するようです。

ゴトグループが製造した不正サブ制御基板は、今回のサブ制御基板の交換が本決まりになったことを受けて以後の仕込みが難しくな

り、せっかくの不正サブ制御基板が無駄になってしまいかもしれません。

この様なケースでは、ゴトグループが在庫処分として不正サブ制御基板を大量にバラ撒く可能性があるため、交換作業の実施までの期間中に被害に遭うことのないように十分な注意が必要です。



## 稼働止める期間が 大幅に短縮され助かる 「みなし機」は措置を

6月12日付けの通達と以前の通

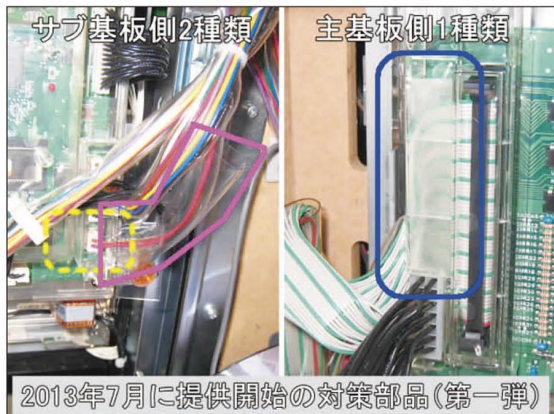
達文からの大きな違いは、今回のサブ制御基板の交換は変更承認申請が必要な事案であっても、「故障機の部品交換とは異なる」との扱いになったことです。故障機の部品交換と同じ扱いであれば、変更承認申請後に遊技機の稼働を止めてサブ制御基板を交換後に警察検査が終了するまでの長期間に渡って、遊技台の稼働を止め続けなければならなりません。

それが警察検査の前日に作業を実施することで良いというのであれば、稼働を止める期間が大幅に短縮されるので、ホールにとって大変助かる状況になります。また、交換作業日を各店舗が新台入替等の何らかの変更承認申請を行うのに併せて実施する（変更承認申請に伴う警察検査を同日にする）ということなので警察業務の軽減にもなります。

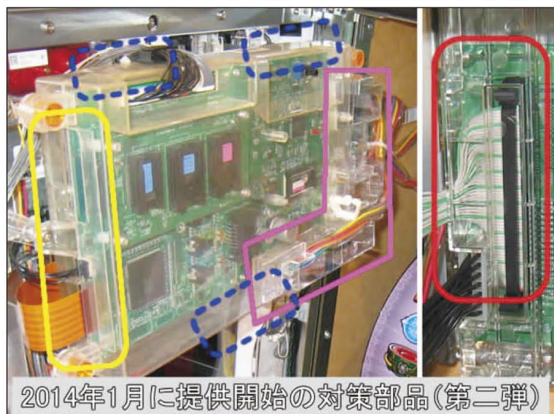
ただ、懸念材料として、サミー「パチスロ北斗の拳 世紀末救世主伝説」と大都「押忍！番長2」に關しては、交換作業期間中に検定有効期間が終了する件があります。6月12日付けの通達で、「検定期間が満了を迎える当該2機種につきましては、認定取得後にサブ制

# ゴトに勝つ 35 高石隆一

## 対策部品を突破する実態に 十分な注意を払う必要あり



2013年7月に提供開始の対策部品(第一弾)



2014年1月に提供開始の対策部品(第二弾)

御基板の交換作業を行います。今回の点検作業はサブ制御基板の交換を伴うため、部品交換ができない検定が切れた遊技機では作業を行うことができません。当該機種を検定期間満了後もお使いになる店舗におかれましては、認定申請をして頂きますよう、お願い致します。」となっております。

認定申請しないで継続して遊技機を使用するいわゆる「みなし機」は、交換作業が出来ないことにより、ゴトグループの標的になる可能性が高くなりますので、必ず認定申請をしてサブ制御基板の交換作業を受けることをお願いいたします。

### 「バイオハザード5」防護品ごと切断し強引に犯行継続する

サブ制御基板の交換事案でも登場したエンターライズ「バイオハザード5」ですが、5月下旬からいから全国的に被害が増加しているように思われます。6月初旬に北海道で発生した事案では、低賃金コーナーに設置されていた「バイオハザード5」において、お客様から「液晶演出と音声演出が合っていない」との報告を受けて、役職者がその状況を確認した上で故障台として稼働を停止させました。

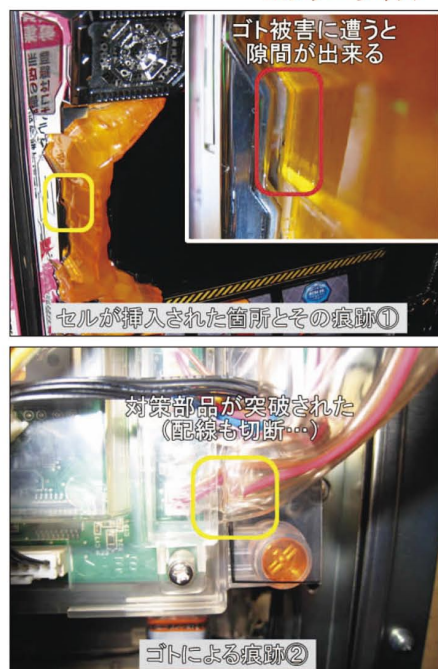
後日、弊社の遊技機点検検査時に当該遊技機からゴト痕跡を発見しました。ゴトに狙われるサブハーネスは、メーカー対策部品(2種のビニールチューブ)と北海道公安委員会の許可取得済みの対策部品(プラ板で防護を実施していたのですが、防護品ごと切断されていて、筐体左上ランプカバーにはセルの被膜と思われる物体が挟まっています)。

今回のケースでは、ゴト師が予想していなかったプラ板による防護が付いているにも関わらず、強引に犯行を継続したために、実被害の発生自体防いだもののサブハーネスが切断される事態となったものと想像できます。

実は、エンターライズ「バイオハザード5」は、2013年7月にARTのセルゴト対策として第一弾のゴト対策部品(写真参照)が提供されているのですが、残念ながらこの第一弾の対策は早々に突破されてしまい、その後も全国で多数の被害が出てしまいました。

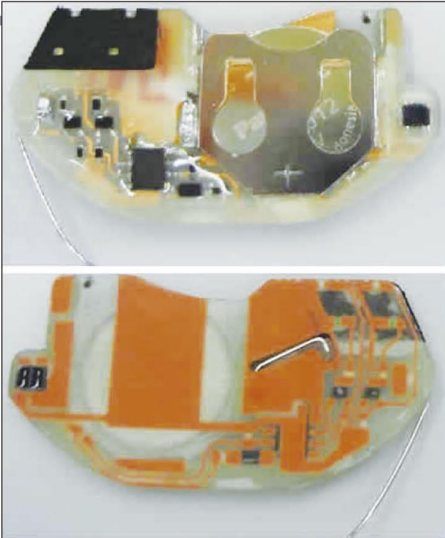
第2弾の対策部品の提供が停止されて危険なままの「バイオ」も

### エンターライズ

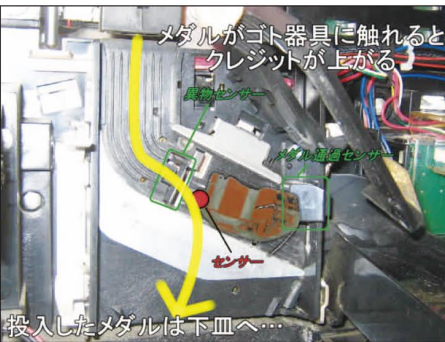


その状況から、2014年1月に第二弾のメーカー対策部品(写真参考)の提供が開始されたのですが、対策部品提供が始まってしばらくするとなぜだか対策部品の提供が停止しました。第二弾の対策部品の提供が停止された理由は明らかになっておりませんが、ホールには第二弾の対策部品が設置されたゴト被害に遭いにくい「バイオハザード5」と第二弾の対策部品が設置されていない危険な「バイオハザード5」が混在している状態にあります。

今回の被害に関しても、手口や状況から第二弾の対策部品が設置されていればハーネスの切断も無くゴトを撃退できたはずですが、自店に設置されている「バイオハザード5」の防護状況をご確認ください。第二弾のメーカー対策部品



クレジットを上げるゴト器具 (表と裏)



の取り付けが済んでいない危険な「バイオハザード5」の設置の場合には十分に注意してください。

設置店舗、設置台数も減少してきている「バイオハザード5」ですが、ゴト師は設置台数に関係なく、バラエティーコーナーの1台を狙って全国をゴト行脚しております。また、今回の事例のように、低貸コーナーでの犯行も増えてきておりますので、低貸コーナーだからといって油断することなく警戒をお願いいたします。

## ユニバーサル系で 対策部品を突破する クレジット上げ多発

早々にメーカーから対策部品が提供されて終息したかと思われるユニバーサル系スロットのクレジット

ット上げゴトが、5月頃から西日本を中心に被害が多発しております。誤差メダルが5千〜1万枚と、被害に気がつかずに長時間被害に遭うと甚大な被害金額になるので、十分な警戒が必要なゴト事案です。

おもに被害に遭っているのは、ミズホ「アナザーゴッドハードス」奪われたNEUSVer.」、メーシー「SLOT魔法少女まどか☆マギカ」、エレコ「バジリスク」甲賀忍法帖「絆」等で、いずれもメーカー対策部品が提供されている機種にも関わらず実被害が発生している状況です。

過去の対策部品を突破された事案を勘案して、ここに来てユニバーサル系スロットのクレジット上げゴトが発生している要因として次の4つの可能性が想定されます。

### ①改良によってメーカー対策部品

を突破するゴト器具が開発された。

②従来のゴト器具でも試行回数によって対策が突破できてしまう。

③対策部品には厚みが異なる数種類が存在することから、厚みによって従来のゴト器具でも突破可能な対策部品が存在する。

今回の事案で使われているゴト器具の仕組みは、最初にメダル投入からゴト器具をセレクト内に停留させます。その後メダルを1枚投入すると、投入されたメダルがゴト器具にぶつかることによりゴト器具のスイッチが入り、任意の枚数が上がるようになります。

④対策部品の取り付け不備を狙った犯行が増えている。

しかし④は、出荷段階から対策部品が取り付けられているミズホアナザーゴッドハードス「奪われたNEUSVer.」やエレコ「バジリスク」甲賀忍法帖「絆」でも被害が発生しているもので、④ではないということが判明しております。

この投入されたメダルにより異物センサを反応させ、ゴト器具によりメダル通過センサを反応させることで、二つのセンサを突破してエラーの発生を回避することで、クレジットが上がる仕組みになっています。

## ゴト器具とメダルで 二つのセンサークリア 犯行後に器具を回収

しかし、メーカー対策部品を突破すると言っても、簡単に突破している訳ではないようで、被害台でセレクトエラーが発生しているケースが多く報告されております。

しかも、後に投入されたメダルは、ゴト器具にぶつかることでホッパーに飲まれることなく下皿に戻ってくるのです。メダルを入れる振りではなく実際に投入するので、犯行時の仕事として他のクレジット上げゴトと比較しても、とてもわかりにくい厄介な手口です。犯行後は、返却ボタンにより下皿にゴト器具が排出されるのも、これまた厄介な状況です。

ーの突破が上手くいかないケースが多々あるように思われます。異物センサーが反応せずに、メダル通過センサーが反応した場合に「Cr」（メダル逆行エラー）が発生します。

「Cr」「CJ」「CE」というエラーが発生した際には、全スタッフが確実にインカム報告をすることを徹底させてエラーの情報共有を実施し、役職者は防犯カメラの録画映像をチェックすることを必須事項として定番化するようにお願いいたします。

## 「月下雷鳴」の対策部品 粘着テープ貼るのに 処置が不完全なのは

6月5日付けで全日遊連から通達も出されておりますが、エンターライズから販売されている「パチスロモンスタールハンター月下雷鳴」において、サブ基板ケースに貼付された「開封厳禁シール」が設置稼働後に自然剥離している状況が確認されていることから、これを防止するための対策部品が提供されることとなりました。

対策部品は6月13日までにメー

ル便にて各店舗へ配送されているとのことです。この連載をお読みになっている時には、既に対策部品による処置が終わっているはずですので。

しかし、今回の対策部品に関する案内を読む限り、重要な問題に対する回答（処置）がないまま、対策部品が配付されてしまっているのです。

今回配送された対策部品は、サブ基板ケースの上下2箇所には貼付されている「開封厳禁シール」を覆うように透明粘着テープを貼付することで、開封厳禁シールが剥離しないようにするというものですが、自然に剥離した「開封厳禁シール」に開封マークが出てしまっているケースが散見されている状況で、そのまま上から透明粘着テープを貼付するのはいかなるものでしょう。

## 剥がれて開封マークが 出てしまっていたら 中古移動で重大な問題

「パチスロモンスタールハンター月下雷鳴」が導入されてすぐに、弊社にホールのセキュリティ担当

エンターライズ



者の方から「開封厳禁シール」が全台剥離している、うっすらと開封マークが出て剥離している台がある、ということでの相談が相次ぎました。

開封マークが出てしまっている事案に関しては、中古移動する際に重大な問題になる可能性があるため、早急に購入元に状況を連絡して、今後の対応を確認して頂くようにお願いしました。

まだ「パチスロモンスタールハンター月下雷鳴」では、サブ制御基板の不正事例が確認されていない状況ですが、ゴトは人知れず秘かに静かに遊技機を蝕んでいるケースがほとんどで、気がついた時には甚大な被害に遭っているものです。もしかすると、既に不正サブ

制御基板の被害に遭っている台があるかもしれないということを前提に考えるのがセキュリティにおいての重要な考え方です。

「パチスロモンスタールハンター月下雷鳴」では、サブ制御基板の不具合で、ボーナス（擬似ボーナスのAT）が準備中のままスタートせずに出玉が増え続ける不具合が発生したケースもあります。導入から間もない時期での出来事からサブ制御基板の不具合ということに原因が特定されました。

これがサブ制御基板の開封厳禁シールが剥離して開封マークが出ている状態だったら、どうなるのでしょうか。この原稿を皆さんが目にする時には、開封マークが出ているケースに対する対応方法がメーカーから案内されていることを願っております。

■高石隆一 ■たかいしりゅういち

警備会社の指導員、セキュリティ会社を経営して2003年、有限会社ジャパンセキュリティサービスを設立し代表取締役。札幌方面遊技事業協同組合、札幌遊技業協同組合、札幌遊技業支配人会の顧問を務める。また、パチンコ産業のセミナー講師を数多く務める。北海道警察本部の捜査にも協力している。二期会が座右の銘。